

令和4年度 学校教育自己診断の結果

学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。(生：生徒 教：教員 保：保護者であればまる%を記載)なお、今年度は質問項目を精選しており、昨年度と質問項目が変わっている部分については、近似した項目を並列している。

1 確かな学力 ○わかりやすい授業を拡充・展開する

対象	質問項目	R4	R3	R2
生徒	自分の学力の向上を実感している	67.6%	54.1%	48%
教職員	授業は、基礎学力の向上に重点を置いている	89.3%		94%
教職員	基礎・基本を明確に教材の精選・工夫を行っている。	96.4%	100%	
保護者	子どもの基礎学力が向上したと感じる			59%
保護者	子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている	70%	62.1%	

プロジェクター導入以降、ICTの活用、参加体験型を多く取入れ、意欲を向上させるように工夫していることが功を奏し、教員の実感や保護者の手ごたえ、生徒の実感について、徐々に評価が向上している。(※保護者発問「子どもの基礎学力が向上したと感じる」は変更した)

2 安全安心な学校 ○生徒に寄り添う生活指導

対象	質問項目	R4	R3	R2
生徒	悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。	76.2%	66.8%	59%
教職員	教職員は生徒の意見をよく聞いている	92.9%	88.9%	84%
保護者	学校は、親身になって相談に応じてくれる			68%
保護者	保護者の相談に適切に応じてくれる	86.0%	88.1%	

今年度も懇談会や「支援カード」等を活用しながら丁寧な対応をするとともに、「いじめ防止対策委員会」の積極的に開催し、個別生徒事象にこまめに対応した。

保護者の発問は今年度より「保護者の相談に適切に応じてくれる」に変更した。日ごろからのこまめな連絡と相談を実践した結果、肯定的意見が大幅に向上している。

3 将来の生き方デザイン ○系統的なキャリア教育

対象	質問項目	R4	R3	R2
生徒	1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている			57%
生徒	将来の進路や生き方について考える機会がある	83.2%	80.4%	
教職員	学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している	71.5%	86.1%	63%
保護者	懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話をしている			57%
保護者	将来の進路や職業について適切な指導を行っている。	87.7%	77.2%	

{ 生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」 生「将来の進路や生き方について考える機会がある」 教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」 保「懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話をしている」 保「進路指導で家庭との意思疎通をきめ細かく行っている」 }	(R2年度 57%)
	83.2% (80.4%)
	71.5% (86.1%、63%)
	(57%)
	87.7% (77.2%)

1年からのキャリア教育については、昨年度まで生徒・保護者ともに減少をしていたが、今年度発問項目を変更したうえ、日常のこまめな連絡相談体制を構築した結果、大幅に数値が向上している。

4 教員の育成（資質向上） ○校内教員研修の充実	R4年	(R3年)
生「他の先生が授業を見学にくることがある」	55.8%	(57.6%)
教「研究授業を定期的の実施している」		(7%・7%)
保「先生は、一社会人として適切な対応ができている」		(69%・69%)
保「先生は、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている」	79.7%	(84.8%)

教員の資質向上については、今年度人権意識の向上をはかることを主な目的として研修等を実施、また日常の取組みとしても、人権尊重の観点を強調しつつ指導を行った結果、人権尊重の姿勢についてはおおむね良好な評価が出ている。また、相互の教育力については、昨年度より微増している。

令和 4 年度 学校教育自己診断の考察

大阪府立泉鳥取高等学校

1 生徒の部

(1) 評価の高かった項目

全体的に肯定的意見が 70%以上を占めている。

肯定的意見が一番多いのは、「21 人権について学ぶ機会がある (86.5)」、「7 評価の仕方や基準について、事前に知らされている (85.2)」「16 学校は、進路についての情報を知らせてくれる (83.6)」「15 将来の進路や生き方について考える機会がある。(83.2)」「20 命の大切さについて学ぶ機会がある (83.1)」とつづく。

(2) 評価の低かった項目

肯定的意見が少ないのは、「24 他の先生が授業を見学に来ることがある。(55.8)」である。「26 授業や部活、学校行事などを通して、他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある (57.4)」地域交流や他の学校との交流を特色としてきたが生徒数の減少やコロナ禍の影響が原因であろうと考えられる。

(3) 昨年度から変化した項目

昨年度と比較して、全体的に肯定する回答が上昇したことである。昨年も評価の低かった、「26 授業や部活、学校行事などを通して、他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある (33.0→57.4)」24.4 ポイント上昇しており上昇率としては一番高い。

一方、ポイントが下がっている項目は「23 授業などで 1 人 1 台端末を使用している (86.3→80.6)」6 ポイント「24 他の先生が授業を見学に来ることがある。(55.8→57.6)」1.8 ポイントの 2 項目である。「23 授業などで 1 人 1 台端末を使用している」についてはすべての授業において使用されており、今後は双方向での利用を促進していく必要がある。「24 他の先生が授業を見学に来ることがある。」新型コロナウイルス感染症の影響か教員間の授業見学の機会が減っていたためであると考察できる。

2 保護者の部

(1) 評価の高かった項目

80%以上の肯定的意見は、10項目あり上から「16 学校に友達がいる (88.5)」「12 将来の進路や職業について適切な指導を行っている (87.7)」「5 子どもの評価が適切公平である (86.5)」「8 保護者の相談に適切に応じてくれる (86.0)」。 「9 いじめについて子供が困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(85.2)」以下6, 3, 14, 15, 20とつづく。

(2) 評価の低かった項目

肯定的意見が5割を切る項目は2項目あり、「19 参観や行事に参加したことがある (34.9)」「23 PTA 活動に参加することがある (30.5)」昨年度はいずれも10%前後でありともに20ポイント上昇している。

(3) 昨年度から変化した項目

昨年度と比較して、生徒結果と反し肯定する回答が下降したことである。80ポイント以上の項目は10項目あり昨年度より2項目減少している。ポイントが下降した項目は9項目あり「13 進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている (77.2→71.9)」「18 先生は、すべての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。(84.8→79.7)」については5ポイント下落している。以外は誤差の範疇であるにとらえられるが、生徒の「12 将来の進路や職業について適切な指導を行っている (87.7)」となっている。家庭への連絡をもっと密にとる必要があるのではないかと思われる。

3 教職員の部

(1) 評価が向上した項目

教職員で肯定的評価がポイントが向上したのは、7項目のみである

「18 生徒が楽しくなるように文化祭を工夫している。」(86.1→96.5)

「19 生徒が楽しくなるように体育祭を工夫している。」(81.7→96.6)

「24 いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる。」(88.9→96.6)

「25 教育相談体制が整備されており、生徒は担任外の教職員とも相談できる。」(89.3→91.7)

「27 授業において、生徒が理解できている手ごたえがある。」(77.8→78.6)

「30 学習の評価は、客観的で公平にしている。」(97.2→100)

「34 学校生活について生徒が納得できる指導を行っている。」(83.3→96.4)

生徒数が減少する中、在籍する生徒の不利にならないための工夫が学校行事の形で表れている。支援を要する生徒の増加に伴い、修学支援委員会・いじめ対策委員会等の委員会がフルに機能している。

(2) 評価が低下した項目

上記6項目以外のほとんどの項目について若干ではあるがポイントの減少が見られる。原因としては学級減に伴う教員の定数減によるアンケートの分母が減ったためであると考えられる。大きく減少した「5 1人1台端末を使って授業を展開している」(83.3→35.7)では昨年度までのアンケートでは「ICT(情報機器)を使って授業を展開している」となっていたため減少したものとみられる。また、「双方向での利用」ととらえた教員もあったようである。